

男重寶記卷之三

目録

一

茶湯

茶湯のやうにやうに

茶湯のやうに

茶湯のやうに

爐凡炉並合をなす圖

茶湯法友のやう

二

五花

五花のやうに

五花のやうに

五花のやうに

花紙をなす

花紙の物乃やう

あげ入花のやう

法法友のやう

三

盤上

盤上のやうに

盤上のやうに

盤上のやうに

盤上の盤醋

日詞字に侍

大お茶乃やう

摩訶大お茶のやう

大いね茶のう

大いね茶のう

中將茶のうの圖

中將茶のう

盤上會所

盤上會所

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including circled numbers 1, 2, and 3.

男重寶記卷之三

一 茶湯立やう喫やう 糺ニ落札

卯月朔日の変更のれは茶湯をけ日より九月朔日

まぎへ風炉あり九月より来二月まぎへ風炉あり

一 茶をてぬりぬりまぎへ栞板とたのまにわづけ板やぬ

と並せりけのりお子とた栞板とけりくにちやぬとぬ

へ一礼や茶椀とぬけ茶入とより茶椀とさかおと

のるふとたたぬにくかたのぬあて茶とたぬぬ

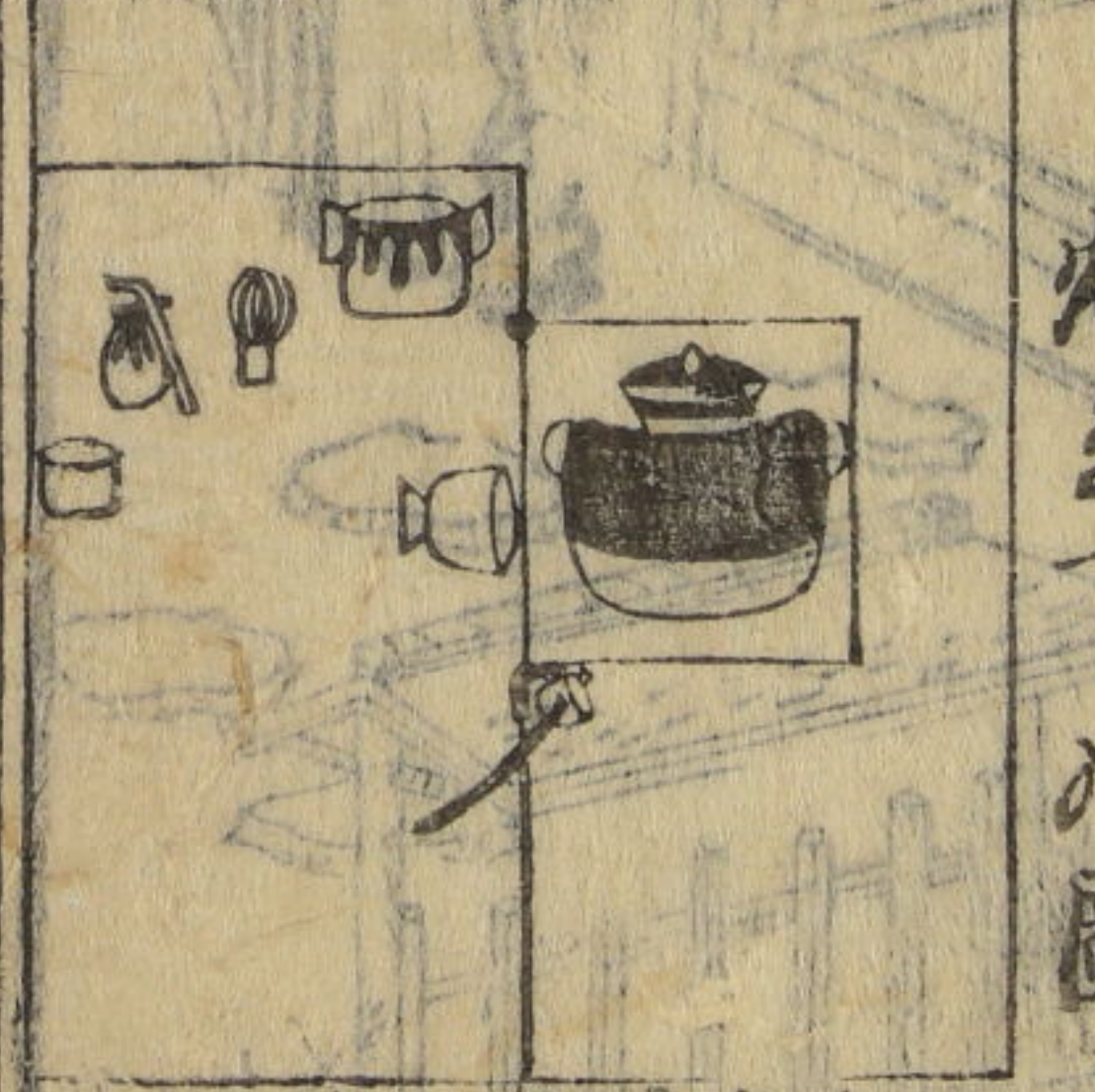
とめら方とたへくとぬらたまき清とたぬぬみま

一 ぬぬのゆびまき茶のまきりくはとぬぬぬぬぬぬ

此茶の湯の作法は、中々たきすひやせ又かうた茶をたき、
 とく茶入とらひ中水の氷うけあさ仕ゆくそのまゝ茶
 へてこひやあり又うた茶をたきまじりてたきあうにゆりて
 茶入らうゆくその茶入の注出し入とゆり中たよ
 中やまじりゆき入る位いつくけ茶をまじりくゆ
 煖茶合の圖



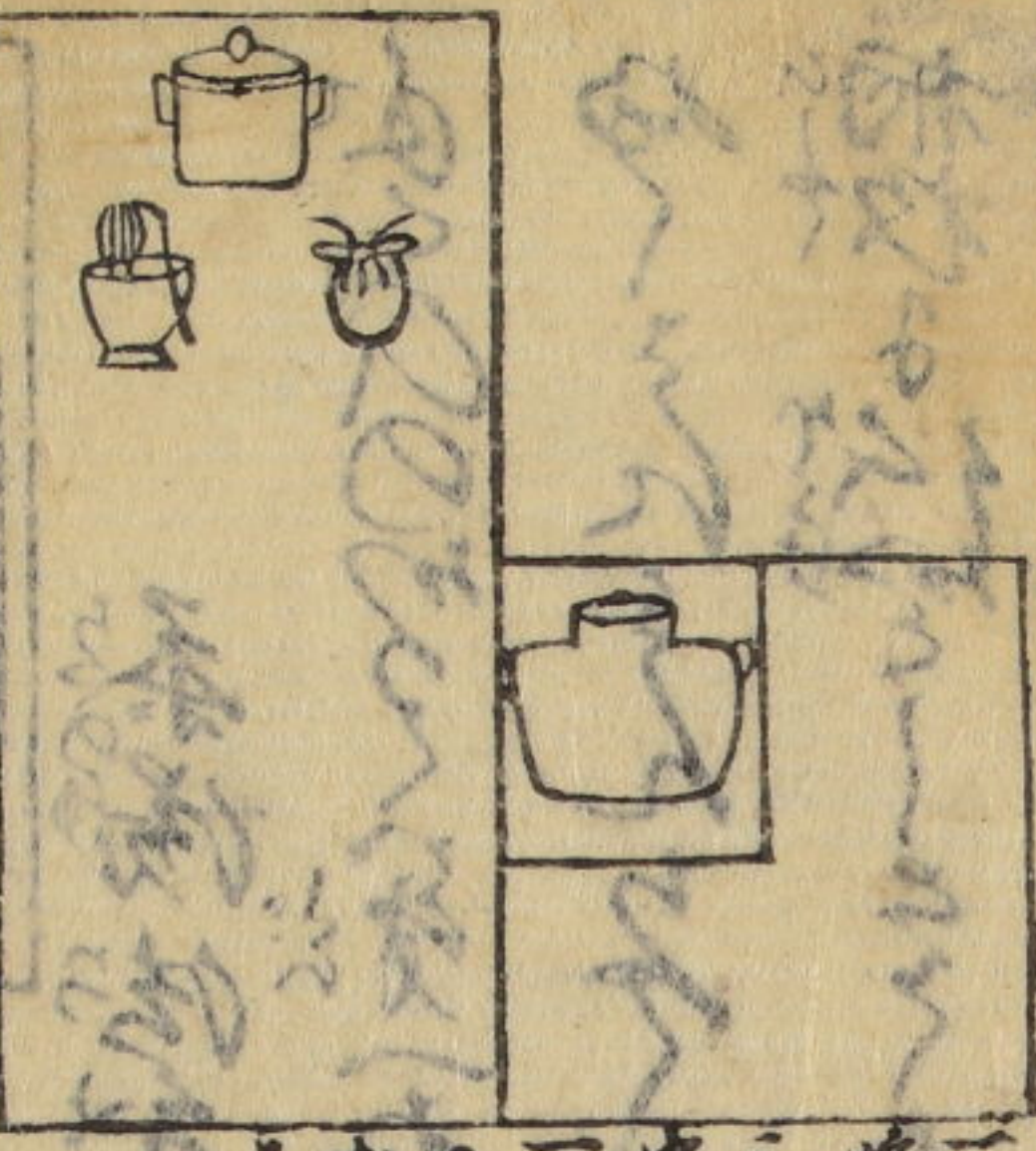
茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい



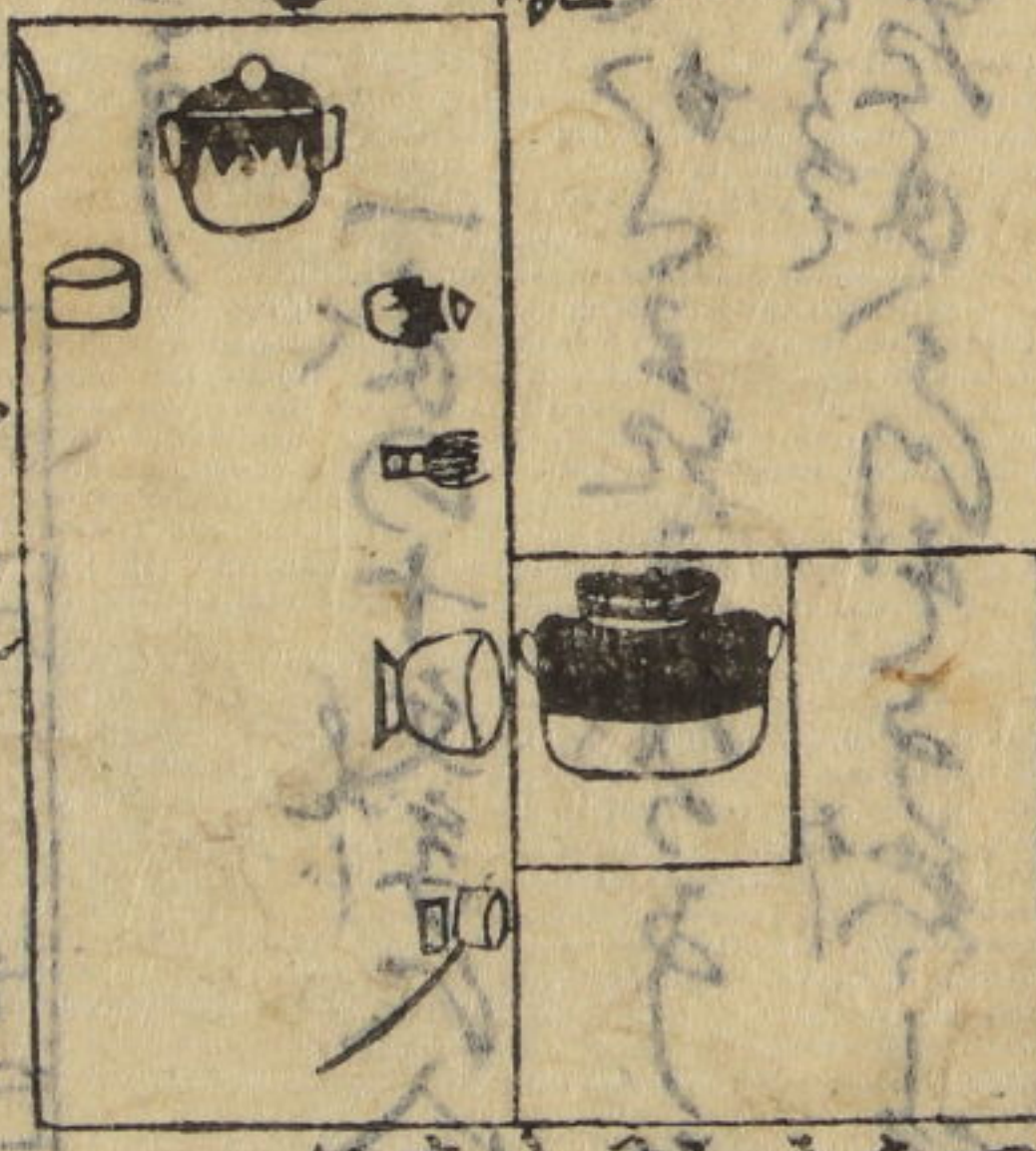
一茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい

煖茶合の圖

四茶合の圖



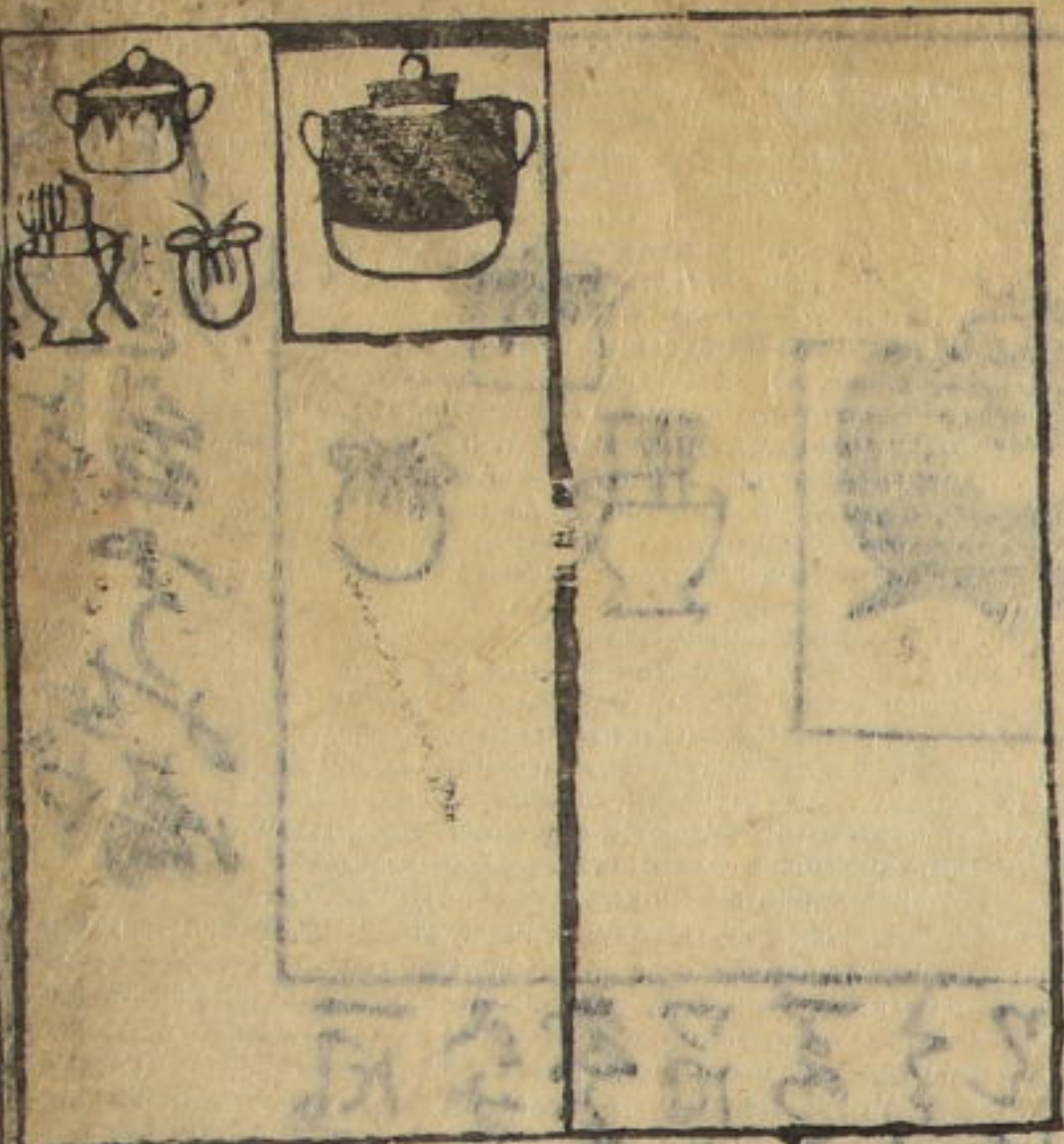
一茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい



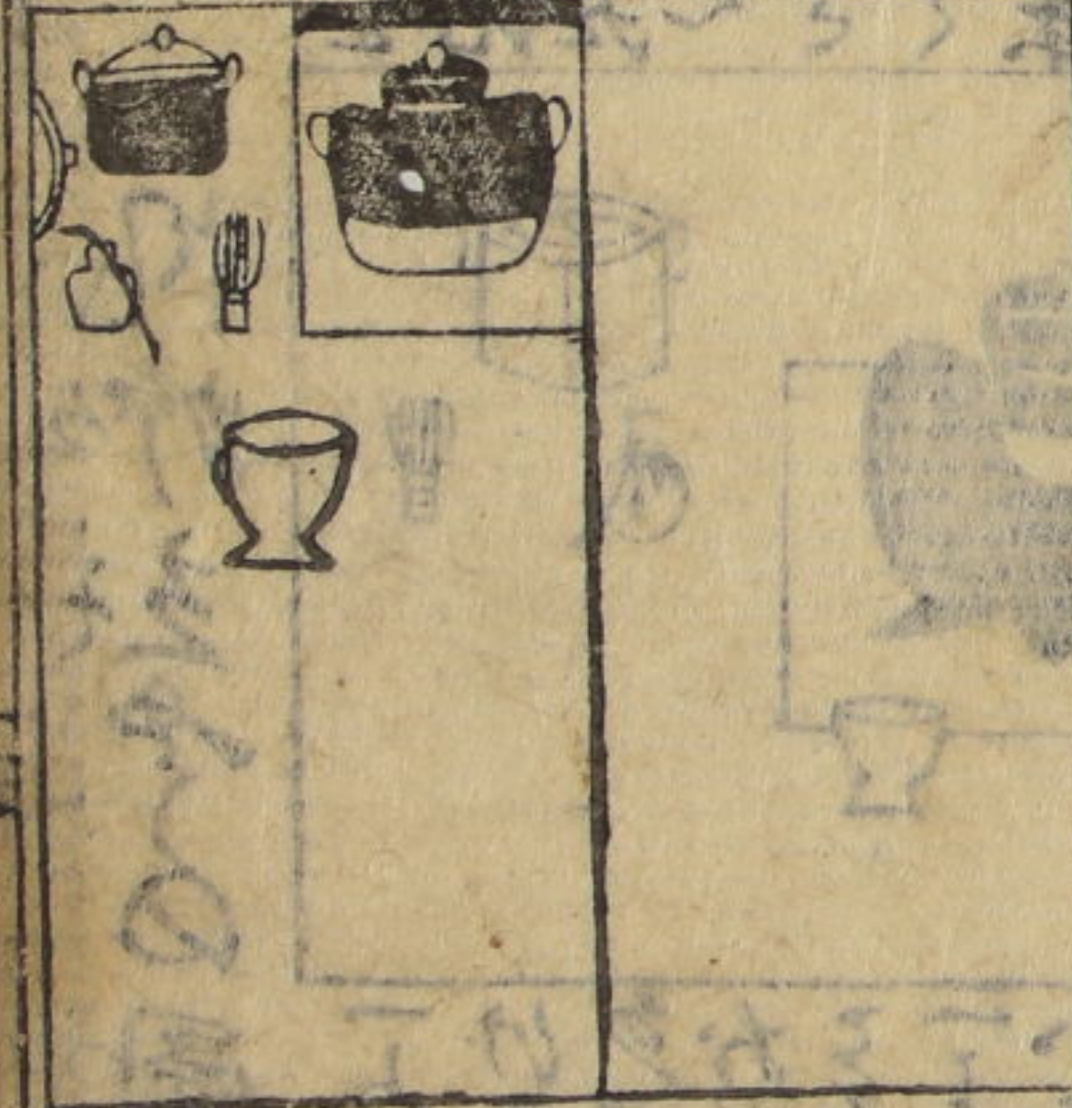
一茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい

四茶合の圖

一茶合の圖



一茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい



一茶入水うけあ
 のまじり茶入の
 まじりゆきあ
 一もけい茶入あ
 一茶入水うけあ
 九月十一日十三日
 小舟のてい

一茶合の圖

一茶巾をえくろのきりぬのぐれぬやうにきぐ

右の巾を移地入にせしむらり申入にせしむらり
茶湯の法を細く教へせしむらり
人本木の書子出せしむらり
茶のえやうのきやうじらりと和んのこふあうすのこ

二 立花のより 稽古 圖研物あげ入法

一立花をやうにせしむらり
間とをせしむらり
さうとせしむらり
一花をえくろのきりぬのぐれぬやうにきぐ

一花をえくろのきりぬのぐれぬやうにきぐ
てとせしむらり
さうとせしむらり

立花の圖



一花をえくろのきりぬのぐれぬやうにきぐ
のえくろのきりぬのぐれぬやうにきぐ

一 海り枝とてあらうと出でしうらへ海りう海り
出くまへ、海とてくぐす

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ
よと出でしうらへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ
よと出でしうらへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ
よと出でしうらへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ
よと出でしうらへ、まへ出でしうらへ

一 葉一花四葉四花六葉六花とてうらへ

一 一本と三本の一本と花を五花とてうらへ

一 砂の物の五花とてうらへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 一葉の枝のよと出らうまへ、まへ出でしうらへ

一 基より三十三法ありそめきたの

立たつ ありきり

行ゆく

飛とぶ

尖とが

約やく

綿わた

衝つ

開ひらく

觀み

毅い

割わ

頂たか

撲う

跳は

門かど

断つ

おお

點てん

征せい

辭ことば

岸しほ

聚あ

劫やく

投な

撲う

靴くつ

勅しつ

變か

盤ばん

鬆しょう

擗ひ

靴くつ

勅しつ

變か

一 石のかくん基よりはふり針

連つ

突つ

咽のど

除のぞ

塗ぬ

込こ

踏ふ

突つ

咽のど

押お

刺さ

入い

聖目せいめ

星目せいめ

井目せいめ

卒道そつどう

羸輪れいりん

強弱きやうじやく

持碁ちご

助言すけごん

先まへ

碁守ごし

綴五ずいご

饒三にほさん

硬節こうせつ

虎口こく

一 雙六の阿育王はらりしと先ありて名免との書子三

とねしていろと八寸十二月子わそ一尺寸すそに

十二の月とら天地人三ふまのさりてまに二版

とせけ陸陽の二儀とあそくく内外の二陣と

一 碁子のさりて黑白三十の石あり日月子のあそく

て二川の養あり宝宗皇帝重三重四七位の高

ゆて同子朱とをりしる朱三朱四とをゆて

○双六子けり子

朱三 朱四 重一 重二 重五 重六 五四

筒 重周 後 敵 煎 欠 下端

筒 塞 弓

外此汝門双六 七双六 一二五六双六 双六石抗

柳下端 五本塞あがり又あがり

十六月夜 十不足 百五減 郎管打 盗人隠

有哉立 島立 たぐ立 下中打 技壺

虎子渡 三廿二十之継子立

○雙六之詩

拙言撐面怒難堪

打破方々石乱参

塞在筒中碎思否

彼呼朱四我朱三

一將棊の周の武帝けりしと定めし

将棊短つらりり温公将棊圖法けりし朝子の宗棊

宗古の道子連者けりしけの物棊短とつらりり

将棊に八殺種あり大将棊 馬殺三百五十四枚 摩訶大

将棊 馬殺三百九十二枚 大將棊 馬殺三百九十二枚 大將棊

将棊 馬殺三百九十二枚 中將棊 馬殺九十二枚 小将棊 馬殺四十枚

将棊 馬殺三百九十二枚 中將棊 馬殺九十二枚 小将棊 馬殺四十枚

わさくも色も外にお茶いさうとあるが、いさくも
 目教馬救とあるはのこ也小お茶いさくもありらうまあれ
 じらういさくも守中お茶いさくもせよとあるは色間又
 ありぬ人もわさくもいさく馬のいさくとありらうまのこ
 横行 横行の 飛牛 堅行の 角鷹 飛鹿 飛鷲
 奔王 師子 支車 鯨鯢 及車の 盲虎 飛鹿 鳳凰
 麒麟 猛豹 銅將 解象 伸人 太子 白駒
 石乃外ハ小お茶いさくもいさくもいさくもいさくも
 将棋印字
 成 張 突 吐 死 王 女 倒馬 替

昇 批 指 二 着

お茶の詩

互圍玉將指初辰
 盤上雖無騎掛荷
 先突歩共邊伸人
 角行替馬使金銀

碁指南會所
 碁指南會所
 石丸三左衛門

系ぬ五町通二条下ル町
 系衣柳三条下ル了れ過子
 碁より出らる約
 田代市左衛門
 いづと色書右衛門

一 庭より若と慕うありとふりたるはとふりたるはとふりたるは
 一 任よゆふ
 一 馮よ周を捕たり
 一 知とふり
 一 拈基よんる
 一 杯と酒がわつ
 一 一人の御言とふり
 一 一人の舞ふ
 一 とおて盤とふり
 一 一人の御言とふり
 一 拈基より出る世後
 一 御言よ
 一 王女つるんる
 一 拈基を河はとふり
 一 王女つるんる
 一 小者と二女とふり重一とふり名出たり
 一 筆乃月と切
 一 侍よとふり
 一 重五とふり
 一 重五とふり

阿部氏

藏書

阿部氏



阿部氏



